
白黒ノ王女 -ハツコクノオウジョ-

ういんぐ@

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白黒ノ王女 - ハツコクノオウジョ -

【Nコード】

N9505Y

【作者名】

ういんぐ@

【あらすじ】

昔、ヴィンデールミアという国に
2つの王国が在りました。

ビジライト宮殿の白の国の王女、フロミア・パトリス

ティグダーク宮殿の黒の国の王女、レイビア・ディルテ

白の国と黒の国はとても仲が悪く、

隣同士に在りました。

さて、一体、どうなることでしょうか…。

1 ページ目 - Prologue - (前書き)

- Attention -

・あまり好ましくない言葉遣い等があるかもしれません。

・苦情、中傷等は受け付けません。迷惑となります。

以上の2点が守れない方、常識がなっていない方は、お引き取り願います。

尚、投稿した小説に誤字・脱字等がありましたら、ご報告して頂けると幸いです。

1 ページ目 - Prologue -

昔、昔の、そのまた昔。

ヴィンデリーミアという国に
2つの王国がありました。

1つは白の国。

そこは、建物も、服装も、何もかもが真っ白なのです。
ビジライト宮殿の白の王女の名を、
フロミア・パトリスとっていました。

そして、もう1つは黒の国。

そこは、建物も、服装も、何もかもが真っ黒なのです。
ティグダーク宮殿の黒の王女の名を、
レイビア・デイルテとっていました。

隣同士にあるこの2つの国は、
とても仲が悪いのです。

さてさて、この2つの国は
これからどうなることでしょうか……。

1 ページ目 . Prologue . (後書き)

宜しければご感想を。
泣いて喜びます。

2ページ目 - White Queen -

白の国、ビジライト宮殿にて――

王女フロミアは気がたっていた。

「ああっ！腹立たしいわ！！なんで黒の国なんてあるのかしら！
私がこの国……いいえ、このヴィンデーリミアを手に入れてみせるわ
！！

そのためには……あの黒の国は私のヴィンデーリミアに必要ないの！
！」

フロミアはそう言うのと、近くに居る兵士を呼んだ。

「ちよっと、その兵士！！」
すると、

「はいっ！なんでしょうか、フロミア様！」

兵士はフロミアの近くに來て跪き、勢い良く返事をした。

「お前達……」

ここまで言っつて、フロミアは息を吸った。

そして、誰しもが耳を疑うような言葉を口にした。

「これから黒の国を潰せ。」

兵士は呆然としていた。

「フっ……フロミア様、今なんとおっしゃったのですか？」

兵士はもう一度、フロミアの発言を聞こうとしたが、

「煩いっ！！何度も言わせないでっ！

これは、フロミア王女の命令よ！」

と、あっけなく遮られてしまった。

「はっ！！申し訳御座いません！

只今、ピオワーナ様にご相談し、準備を致します！！」

そう言っで、兵士はその場を立ち去った。

「なんでわざわざ、ピオワーナの許可が必要なのかしら……。」

ピオワーナ・ヘラビダ…ビジライト宮殿の大臣。

大臣って偉い人らしいけど、

私は良く分かんないし、関係ないし、興味ないけど。

「…黒の国の王女、レイビアか…。」

フロミアは一人、静かに呟く。

「まあ、私にはアイツがどうなるって…

関係ないけどね。」

そう言ったフロミアの目に、
光はなかったー。

3ページ目 - P o t e n t i a l -

なんだかんだ2〜3時間位は経ったかしら…。

全く、遅いわね。あの兵は何してるのよ。

黒の国撲滅運動のシナリオは完璧（？）に出来てるのに、
ここで止まったら意味が無くなっちゃうじゃない。

ピオワーナぐらいなんとかしなさいよ！！！！

「はあ…。」

フロミアは落ち着きなく、王座の周りを回っている。その後回るのを止め、席についた。

そして、声を張り上げた。

「……遅……………いつ……………イライラする……………」

「なんなの？なんなの！？」と、ブツブツ言っでは、
白いウェーブのかかった長い髪の毛をいじったり、貧乏揺すり繰り返した。

……………

トントントンと、ドアをノックする音が聞こえた。

「ピオワーナ様、フロミア王女から…」

と、兵士が言いかけると、すぐさま返事が返ってきた。

「王女から……………どうぞ、お入りなさい。」

少し低い声が扉の奥から聞こえて来る。

「はっ！！失礼致します！！」

兵士はその場で返事をした後、扉を開けた。

ガチャ。

「で、用件はなんだい？」

と、ピオワーナは兵士に質問した。

「フロミア王女から

ピオワーナ様にお言葉をお預かりしております。」

…？王女から僕に？何だろう。

また、ろくでもない内容だろうなあ。

と、思ったが一応、内容を聞いてみることにした。

「…で、その内容は？」

そう尋ねると兵士は、

「実は…フロミア王女が…

黒の国を潰そうとしております。」

兵士は恐ろしそうに答えた。

すると、ピオワーナの蒼い目が細くなった。

「ハハハッ…なんか、王女が考えそうなことだね。」

少し笑った後、ピオワーナは答えた。

「いいよ。僕が許可しよう。」

兵士は少し固まったが、「…はっ！フロミア王女に御報告致します！」と、言っ出て行ってしまった。

ピオワーナは席から立ち、窓を開けた。

顔や体に涼しい風が当たり、黄色のロングストレートの髪の毛がなびく。

そして、窓の外を眺めながら呟く。

「王女も面白いことを考えるね…。」

その頃、フロミアは――

「……………」ということです。」

兵士が、許可が降りたことをフロミアに伝えた。

すると、フロミアは「本当に！？じゃあ決まりね！！」と、言っていた。

でも、兵士には1つの疑問があった。

「でも潰すと言ってもどうするのですか？」

と兵士が尋ねた。

するとフロミアは、

「そんなの決まってるでしょう？。」

黒ノ国ニ爆弾ヲ落トス。

と――。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9505y/>

白黒ノ王女 -ハッコクノオウジョ-

2011年11月29日23時48分発行